

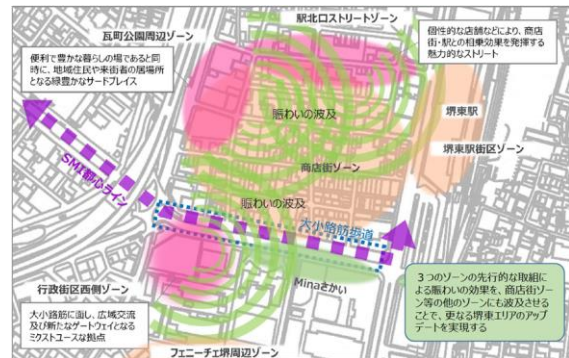
【参考資料①：SMIプロジェクトが結ぶ「魅力を磨く」取組紹介（～2030年頃）】

SMI 都心ライン及び関連取組が連携を検討する都市側の取組のうち、2030 年頃までに実施予定の事業の一部を紹介します。

堺東エリアの市街地整備

「堺都心未来創造ビジョン」（R5.5 策定）に示す堺東エリアの将来像の実現に向け、都市機能の集積やウォーカブルな空間形成に資する市街地整備を促進するべく、都市開発のノウハウを持つ民間事業者（民間アドバイザー）の助言・提案も参考として、堺東エリアの市街地整備に向けた基本的な考え方を取りまとめました。

基本的な考え方では、堺東エリアの活性化に向けて、商店街の周辺に位置する「瓦町公園周辺ゾーン」、「行政街区西側ゾーン」、「駅北口ストリートゾーン」の市街地整備を先行的に取り組むことにより、その効果を早期に発現させるとしています。



出典：堺東エリアの市街地整備に向けた基本的な考え方

※基本的な考え方は、本市で検討・整理したものであり、確定したものではありません。今後、この基本的な考え方を基に、地権者等関係者との協議や機運醸成を図りながら、魅力あるエリア形成に向け、公民連携のもと取り組みます。

<SMI 都心ライン及び関連取組との連携が想定される内容>

ART ステーション×次世代モビリティ×堺東エリアの市街地整備

- ✓ SMI 都心ラインの ART ステーションと 3 つのゾーンを結ぶ移動手段（次世代モビリティなど）を提供することで堺東エリアの回遊性を向上させる。
- ✓ 大小路筋沿いでは、歩道空間や Mina さかいと連続した公共空間の確保により一体的に利用可能なオープンスペースを整備し、ART ステーションを含めて、居心地が良い魅力的な都市空間の形成に向け連携する。

堺旧港周辺の交流空間の創出

堺旧港は、優れた広域アクセス性を有する都心の美しい海辺であり、豊かな歴史・文化によって育まれた堺を象徴する場所です。この貴重な都市資源を活かして、居心地の良い魅力あるコンテンツ・機能の導入により、地域住民や来訪者が何度でも訪れたい海辺の交流空間の創出をめざし、令和 3（2021）年度から社会実験（乙姫の休日。）を実施しています。



社会実験では、親水護岸上において飲食店や物販店舗の出店、音楽イベントの実施、水上アクティビティの体験会を行いながら、にぎわい創出の効果について検討しています。

＜SMI 都心ライン及び関連取組との連携が想定される内容＞

（次世代モビリティ+ CaaS）×乙姫の休日。

- ✓ 堺旧港の海辺の魅力を活かした交流空間の創出をめざす「乙姫の休日。」の会場となっている堺旧港親水護岸と SMI 都心ラインの ART ステーションを次世代モビリティで結び、堺駅からの回遊性の向上をめざし連携します。
- ✓ 堺旧港は、幹線道路や鉄道による市街地の分断などから、エリアの認知度が低く、日常的な利用が多くはない状況のため、美しく整備された親水護岸や開放的な海辺を活かした交流空間創出に向けた社会実験に関する情報など CaaS による情報発信の取組において連携します。

環濠エリアにおける公共空間の利活用

○環濠パブリックワークショップ

「居心地が良く歩きたくなるまちなか」をめざす取組の一つとして、環濠の水辺や公園、通りなどの公共空間を、人々が集まり、憩い、多様な活動を繰り広げられるような場へと転換する取組（公共空間利活用）を公民連携で行っています。その取組の一つとして環濠エリアの将来の姿を模索しながら、公共的な空間の使い方を意見交換し企画する勉強会「環濠パブリックワークショップ」を開催しています。

○環濠-CAN GO-橋わたしフェス

地域の事業者・団体が参画する堺環濠町づくり推進協議会において、新たな魅力創出や、生活する人も訪れる人も愛着を持つことができる活気あるエリアの形成に向けて、地域の方々の機運醸成や情報発信、来訪者の回遊促進の取組を進めています。その取組の一つとして、環濠エリアで開催するイベントと周辺の店舗や施設、歴史スポットを周遊できるよう「橋渡し」するイベント『環濠-CAN GO-橋わたしフェス』を開催しています。この『環濠-CAN GO-橋わたしフェス』を通じて、環濠エリアの企業・店舗・団体等と連携し、関係者が一体となって環濠エリア全体の魅力向上を図ります。



○堺消防署用地の活用

堺消防署用地は、堺都心部の中心に位置しており、沿道などに歴史・文化資源が点在する大道筋と、堺のシンボルロードとして整備された大小路筋の交差点に近接する公有地です。また当該用地周辺には環濠に囲まれているほか、敷地に面している大道筋には路面電車である阪堺線が通っています。

令和 5 年 5 月に策定した「堺都心未来創造ビジョン」では、より多くの人を惹きつける魅力を備えた堺都心部に向けて、地域



資源を活用した都市魅力の向上や、人中心の都市空間の形成が必要としています。

堺消防署用地が位置する環濠エリアにおいては、豊かな歴史・文化資源や人材組織、公共空間があり、歴史を紡いだ環濠エリアの新たな価値創造により人々が集うエリアの形成に取り組むこととしています。当該用地はその立地特性を活かし、環濠エリアを代表する場所、賑わい・交流が創出される場所をめざしています。

<SMI 都心ライン及び関連取組との連携が想定される内容>

SMI 都心ライン・CaaS×環濠エリアにおける公共空間の利活用

- ✓「環濠-CAN GO-橋わたしフェス」は環濠エリアを中心とした広いエリアで実施していることから、SMI 都心ラインや阪堺線、次世代モビリティの活用により、イベント会場や参加店舗を回遊しやすい移動環境の構築をめざし連携する。
- ✓イベント情報や、イベント会場までの移動に関する情報、SMI 都心ラインや次世代モビリティの乗換案内など、CaaS によるわかりやすい情報発信の取組と連携し、イベント会場や参加店舗へ誘導し、堺都心部への人の流れを創り出す。
- ✓SMI 都心ラインにより堺駅～堺東駅間を移動される方に対して大小路停留所に途中下車し、その周辺施設への回遊を促すために、途中下車したことに対するインセンティブなどを周辺施設と連携して検討する。
- ✓公共交通の結節点に次世代モビリティなどのポートを設置することで、南北と東西の公共交通軸から、点在する堺都心部の地域資源への移動手段の空白部分を解消し、回遊性を高め、堺都心部の滞在時間を伸ばす。

屋根のないミュージアム・堺

本市は、1600 年という長い歴史の中で脈々と受け継がれてきた歴史・文化資源を最大限に活用し、市民が改めてその魅力を知り、来訪者の再来意欲を高める取組を実施しています。

「訪れるたび新発見」をミッションに、多数の歴史・文化資源が点在する「環濠エリア」と「大仙公園エリア」を中心とした地域を広大なミュージアムと見立て、人々を魅了し続ける「屋根のないミュージアム・堺」と言われる都市をめざしています。



<SMI 都心ライン及び関連取組との連携が想定される内容>

CaaS×屋根のないミュージアム・堺

- ✓大仙公園エリアを訪れた旅行者を環濠エリアへと誘導することで堺市の滞在時間が長くなり飲食や宿泊などの利用が増える。また自動運転バスにより夜遅くまで高頻度の運行が可能になれば、夜間の誘客イベントや堺旧港の夜景などに誘導することで新たな人の流れができ、夜も堺を安心して楽しんでもらうことができる。
- ✓世界遺産である大仙古墳（仁徳天皇陵古墳）を有する大仙公園エリアから堺都心部への誘導には、堺の歴史の変遷を感じてもらえるような情報発信と公共交通等を利用する際の乗換案内など、CaaS の取組と連携し堺都心部への人の流れを創り出す。

町家活用推進事業

古来から引き継いできた豊かな歴史・文化資源について、すべての市民が貴重なまちの資産として認識を共有し、文化財としての価値を守り、当該価値をより高めて次世代へ引き継ぐことを目的として、町家歴史館（堺市指定有形文化財井上関右衛門家住宅「鉄炮鍛冶屋敷」、重要文化財山口家住宅、登録有形文化財清学院）の公開活用を行っています。

実施にあたり、本市固有の歴史的風致の維持及び向上を図るため、令和 6 年 3 月 29 日に国の認定を受けた「堺市歴史的風致維持向上計画（第 2 期）」の関連事業として、庁内連携のうえ進めています。



鉄炮鍛冶屋敷
（堺市指定有形文化財
井上関右衛門家住宅）

山口家住宅（重要文化財） 清学院（登録有形文化財）



＜SMI 都心ライン及び関連取組との連携が想定される内容＞

CaaS×次世代モビリティ×町家活用推進事業

- ✓鉄炮鍛冶屋敷をはじめとした町家歴史館は環濠エリアの北部に位置しており、そのアクセスとして、SMI 都心ラインや阪堺線、次世代モビリティの活用などについて連携する。
- ✓情報発信と公共交通等を利用する際の乗換案内など、CaaS の取組と連携し堺都心部への人の流れを創り出す。

伝統産業の振興

堺の伝統産業を一堂に集めた「堺伝匠館」では、伝統製品等の販売に加え、歴史・製法の展示、実演・体験イベント等により、伝統産業の魅力を発信しています。

また、堺の伝統製品とその魅力を引き立てともに輝く逸品を「sakai kitchen〈堺キッチン〉」ブランドとして認定し、それらの商品を堺伝匠館や首都圏等で PR・販売を行い、伝統産業のブランド力向上の取組を行っています。



＜SMI 都心ライン及び関連取組との連携が想定される内容＞

CaaS×次世代モビリティ×堺伝匠館

- ✓堺伝匠館へのアクセスとして、SMI 都心ラインや阪堺線、次世代モビリティの活用などについて連携する。
- ✓情報発信と公共交通等を利用する際の乗換案内など、CaaS の取組と連携し堺都心部への人の流れを創り出す。

阪堺線の取組（地域公共交通計画より抜粋）

○市民等との協働による公共交通の活性化

市民等の寄附による公共交通活性化促進基金を活用し、車両や駅舎の整備等、旅客施設や車両の利便性の向上を図ります。

○路面電車優先信号等の設置の検討

阪堺線の併用軌道区間における路面電車優先信号等の設置を検討します。

○待合環境の整備

利用者の多いバス停等を中心に、上屋やベンチ等の整備による待合環境の改善、駅や停留場について老朽化している施設の更新を検討します。

運行情報をはじめとした案内情報の充実を図ります。（SMI 都心ラインを含む）

○企画乗車券の発行

市内の交通機関で利用できる企画乗車券の発行により、公共交通の利用及び市内周遊を促します。【（例）南海・泉北 1 日周遊きっぷ、南海バス全線 1 日フリーカード、堺おもてなしチケット、阪堺トリップチケット 等】



阪堺線宿院停留場



堺おもてなしチケット（阪堺拡大版）



公共交通活性化促進基金を活用し導入した阪堺線低床式車両

<SMI 都心ライン及び関連取組との連携が想定される内容>

CaaS×次世代モビリティ×阪堺線の取組

- ✓SMI 都心ラインと阪堺線の乗換案内や企画乗車券の利用案内などについて連携する。
- ✓沿線のおでかけ情報の発信など、CaaS の情報発信の取組や、移動手段として阪堺線と次世代モビリティを組み合わせることで利便性を向上させ、阪堺線の利用拡大を図る。

サイクルシティ堺

「サイクルシティ堺」の実現に向け、堺と自転車との歴史・文化の発信強化をはじめ、自転車利用の利便性向上、広域的な通行環境の整備に重点的に取り組んでいます。

○魅力的な自転車文化の創造・発信

堺市の特徴である自転車の歴史・文化を魅力として再認識し、自転車を持つ様々な利点と合わせて情報発信することで、自転車の価値及び文化の向上を図ります。また、シェアサイクルのさらなる拡大・充実、自転車に触れる機会の創出などにより、市民の自転車利用を促進し、「サイクルシティ堺」としてのブランドを築きます。

○快適で利便性の高い自転車利用環境の構築

自転車通行空間のネットワークを形成し、駐輪場の質的向上をめざして多様なニーズへの対応や快適性、利便性の向上を進めます。併せて、整備した通行空間が有効に活用されるための周知・啓発を行うなど、自転車の走行環境、駐輪環境などの利用環境において、「サイクルシティ堺」として相応しい便利・安全で安心して快適に利用できる環境の構築をめざします。

○安全・安心な自転車利用の推進

自転車関連事故の削減に向けて、効果的な自転車のルール・マナーの教育や啓発を実施し、安全・安心な自転車利用の推進を図ります。また、災害時における自転車の有用性を活かして、避難時や救助活動時の自転車の活用を推進します。



<SMI 都心ライン及び関連取組との連携が想定される内容>

SMI 都心ライン×サイクルシティ堺

- ✓SMI 都心ラインの運行や ART ステーションの整備にあたって、自転車通行環境をあわせて整備するなど、安全な交通の実現を図る。
- ✓ART ステーションからシェアサイクルへの乗換環境を整備するなど、公共交通と自転車の組合せによる利用環境の拡大、自動車からの利用転換をめざす。

参考資料②：期待する効果や未来

堺都心部の活性化や魅力向上はもちろんのこと、SMI プロジェクトを通じて次のような効果や未来を期待しています。

将来の拡張性

SMI 都心ラインはバス車両をベースとしていることから、将来のルート変更や他路線への拡張など柔軟な対応が可能です。道路整備などの社会基盤の整備や社会情勢の変化などに応じて、既存バス路線の再編も期待されます。

暮らしの変化について

SMI プロジェクトはすべての人が移動しやすい環境の構築をめざしています。このような社会が実現すれば暮らしの様々な点で変化が生まれ、暮らしの変化も期待されます。例えば以下のようなことが考えられます。

住民や事業者が集い、交流・憩う空間整備

コミュニケーションの場が増える！

大小路筋を通行（徒歩や自転車）中に知人に遭遇し、パークレットを利用して井戸端会議を開始。スマホで近くの商店から飲み物や食べ物を注文し配達してもらえる。

地域コミュニティが活性化！

ちょっとした待ち時間にパークレットで一休み。公民が連携して来街者をおもてなし、ファニチャーを活用して地域のお店をPRが可能。



図 歩道空間で滞留し談笑するイメージ



図 待ち時間の休憩中のイメージ

多様な移動手段による 移動利便性の向上	<u>移動手段の選択肢が増える！</u> 堺都心部では東西の自動運転バスや南北の阪堺線をはじめとした公共交通や、停留所（場）から目的地まで次世代モビリティやシェアサイクルが利用でき、移動手段の選択肢が豊富にあるので天気や気分に合わせて自由に移動が可能。 <u>ゆったり移動しながら街並みを楽しめる！</u> 歩行者並みのゆっくりとしたスピードで走る次世代モビリティにより、堺の歴史や周囲の街並みを楽しむことが可能。
安全・安心な バリアフリーの実現	<u>ベビーカーでもラクラク乗車可能に！</u> 乗降時の段差・隙間が少ない SMI 都心ラインなら乗車の際に、ベビーカーをたたむことや、持ち上げる必要がないので安心して乳幼児とおでかけが可能。 <u>高齢になっても安心して移動ができる！</u> 乗降時の段差や隙間が少ないことで足腰への負担が小さく、お出かけへのハードルが下がり年齢を重ねても堺都心部での活動を楽しむことが可能。
高頻度・運行時間延長など バス利便性の向上	<u>早朝、深夜のバス移動が可能に！</u> 自動運転バスでは労働時間上限規制への対応が容易となるため、朝早い時間や夜遅い時間でも運行が可能。始発のバスにより堺駅へ向かい関西空港発の早朝の便にも搭乘可能。夜遅い時間では、仲間との飲みに行った帰りにも公共交通で移動が可能。 <u>ラッシュ時間でなくても短い待ち時間で公共交通の利用が可能に！</u> 自動運転バスでは担い手不足に柔軟に対応。高い利便性が求められる都市部において、運行本数が維持できており、短い待ち時間で乗車可能。 <u>路線バスの維持に寄与！</u> 自動運転の導入に伴う省人化により運転士の再配置を行うことで市内の他のバス路線の維持にも寄与。
わかりやすい情報・ ニーズに合った情報	<u>お出かけ先の情報収集が簡単に！</u> CaaS によるわかりやすい情報発信により、堺都心部の情報を簡単に収集することができ、初めての来街でもストレスなく SMI 都心ラインや次世代モビリティなどを利用して目的地に到着。また交通情報だけでなく、観光、買い物や飲食などの情報も取得可能。 <u>多様な言語・多様な文化に合わせた情報取得が可能！</u> CaaS による多言語発信により、インバウンドなどに対応した飲食情報や堺の文化・観光情報等の取得が可能。